

# 令和3年度 学校評価書(最終評価)

※1段:(R2最終) 2段:R3中間 3段:R3最終

能登町立柳田中学校

重点目標	外部アンケート				自己評価			達成度状況の考察(O)と改善方法(●)				
	保護者アンケート	A+B	生徒アンケート	A+B	評価指標	達成度評価規準	評価					
1 「学び」のある学校づくり	学校は、学力向上に積極的に取り組んでいると思いますか。	(90.1) 90.6 <b>93.9</b>	各教科の授業内容はよくわかる。(全教科平均)	(88.7) 94.8 <b>92.1</b>	【努力指標】 「わかる授業」を旨として授業改善に努め、生徒が「折れない心を持つこと」を実行できている。	◆授業アンケート(全教科平均) ◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	B	○各教科の授業内容はよくわかると答えた生徒の割合が90%を超えている。 ○学力向上の取組に関する保護者の割合が徐々に上昇してきた。学校の学力向上の取組が保護者に理解され、学校と家庭での連携した取組となっている。 ○答えを導き出す課程のペア活動やグループ活動を楽しんでいるという項目の数値は依然として90%を超えているが、自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しているという数値が下がった。グループ活動はできるが、資料を使ったり、話の組み立てを工夫するという意識があまりなかったのではないかと考えられる。  ●生徒の現状を把握し、学校研究の方向性を常に検証しながら、授業改善を行っていく。				
		(62.3) 73.8 <b>71.1</b>	答えを導き出す課程のペア活動やグループ活動を楽しんでいる。	(91.1) 95.6 <b>91.1</b>					【成果指標】 家庭との連携を通して、家庭学習の習慣化を図ることができた。(あゆみノートやノー画面運動の取組)	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	B	○毎日、学年目標の家庭学習に取り組む生徒、自分で計画を立てて勉強している生徒の数値が若干下がったが、計画を立てて勉強している生徒が増えた。今後も家庭学習への取り組み方、家庭での時間の使い方について機会をとらえて指導する。 ○保護者の数値は若干上昇傾向である。家庭学習する習慣が定着し始めているようだ。  ●家庭学習の習慣化に向けて、テスト前のノー画面デーの取組方の見直しと、取組の周知徹底を図る。
		(58.5) 66.4 <b>67.5</b>	自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組み立てなどに工夫して発表していた。	(84.7) 82.3 <b>71.3</b>					【努力指標】 家庭と協力・連携して、より良い生活習慣が身につくように指導できた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	B	○朝食を食べていない生徒が3年生に一人いる。継続して家庭・地域と連携して取り組む。  ●早寝・早起きを心掛けている生徒の割合が下降気味である。睡眠と生活習慣の関係について講演会を行ったが、その結果がすぐには表れていない。ネット依存傾向のある生徒や7時間以上の睡眠を確保できない生徒には、個別指導を行ったり、継続して啓発していく。
	お子さんは、正しい生活習慣が身に付いていますか。	(78.4) 76.2 <b>80.2</b>	きちんと朝食を食べている。  早寝・早起きを心がけている。(睡眠時間を7時間以上確保)	(100) 100 <b>97.4</b>  (85.5) 83.4 <b>79.7</b>	【努力指標】 家庭と協力・連携して、より良い生活習慣が身につくように指導できた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	B	○学校へ行くのが楽しいと答える生徒の割合が少しずつ上がってきている ○部活動の取組の成果は高く安定している。日々の取組の成果と考える。 ○生徒会活動・委員会活動はやりがいがあると答える生徒が90%を超えて安定している。自治的活動の意義を生徒が実感する場を保障し、教師が支援してきた成果として、割合が高くなっていると考える。 ○「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」「自分にはいいところがある」の数値が顕著に下がった。  ●「自分にはいいところがある」の項目で、2年生の下がりが大きく、思ったように力が発揮できていないと感じていると思われる。活躍の場を意識して設け、前向きになれるような声かけや指導を行う。また「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」の項目は、学習面や学校生活において、成功体験が少なくなり、自信のなさから自己肯定感が低くなったと考えられる。努力の成果が出やすいコンテスト等に取り組ませることで達成感を高め、授業の中でもミニ重要語句テスト等、より前向きに授業に取り組めるように計画する。				
2 「関わり」のある学校づくり	学校は、「いじめを許さない学校づくり」に努めていると思いますか。	(90.1) 94.3 <b>87.4</b>	学校へ行くのが楽しい。	(87.9) 90.4 <b>92.6</b>	【努力指標】 生徒会の活動を中心に、「いじめを許さない学校づくり」を行うことができた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満	B	○思いやりの心を持って、級友などに接している生徒の割合が下がったが、「自分の周りにはいじめや仲間はずれがない」と感じている生徒の割合が微増した。  ●些細な出来事について、今まで以上に保護者と教職員間で情報共有し、100%に近づけるよう努力する。				
		(84.3) 97.6 <b>93.1</b>	難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している。	(81.0) 72.7 <b>67.2</b>					【努力指標】 道徳の授業を確保し、道徳心や人権意識など心の教育に努力している。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	B	○思いやりの心を持って、級友などに接している生徒の割合が下がったが、「自分の周りにはいじめや仲間はずれがない」と感じている生徒の割合が微増した。  ●些細な出来事について、今まで以上に保護者と教職員間で情報共有し、100%に近づけるよう努力する。
		(94.4) 97.4 <b>95.2</b>	自分の行動に自信を感じることがある。(自分にはいいところがある)	(73.4) 74.2 <b>61.0</b>					【満足度指標】 生徒に対し、ふるさとや地域に目を向けさせ郷土愛を深めることができた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 60%未満	B	○地域やふるさとについての学習の数値が上がった。体育祭や文化祭、遠足等、いろいろな行事を通して、地域の人との交流によりふるさとについて改めて学習する機会があったためと考えられる。  ●今回、地域の人材を活用した講演会等を開くことができた。コロナ禍ではあるが、地域学習について、出来ることを探りながら取り組んでいきたい。
	学校は、地域やふるさとについて学ぶ機会を多く設定していると思いますか。	(90.1) 85.8 <b>86.4</b>	部活動は、自分を鍛えてくれる。  生徒会活動や委員会活動はやりがいがある。	(94.4) 97.4 <b>95.2</b>  (93.5) 97.8 <b>93.0</b>	【努力指標】 挨拶やマナーなど、中学生らしくその場に応じた言動ができるよう日常的に指導を進めることができた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	B	○思いやりの心を持って、級友などに接している生徒の割合が下がったが、「自分の周りにはいじめや仲間はずれがない」と感じている生徒の割合が微増した。  ●些細な出来事について、今まで以上に保護者と教職員間で情報共有し、100%に近づけるよう努力する。				
3 「安心・信頼」のある学校づくり	学校は、家庭への連絡や情報提供を積極的に行っていると思いますか。	(80.6) 74.7 <b>75.5</b>	将来の進路に対する夢や目標を持っている。	(68.8) 58.9 <b>68.2</b>	【努力指標】 将来の夢を実現するために、学ぶことの大切さが分かるキャリア教育を推進している。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	C	○生徒の割合が顕著に上昇した。外部の方の話(講演会等)を通して、将来の進路を見据える機会が多かったと考えられる。  ●今後も継続して、キャリアに関する計画を実行していく。				
		(90.1) 98.3 <b>92.3</b>	学校だよりなど、学校からのお知らせを必ず保護者に見せている。	(72.8) 84.8 <b>77.5</b>					【努力指標】 学校だよりや各種お便り等を充実させ、学校から積極的に情報発信することができた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	C	○HPの更新と定期的に学校便りを配布しているが、保護者にタイムリーに届いていない現状があるようだ。  ●学校の配付物について、保護者に見せる習慣をしっかりと身に付けさせる必要がある。提出期限を守る習慣を身に付けさせたり、連絡メールを積極的に活用していく。
	教職員(SC・相談員含む)は、悩みや相談について適切に対応していると思いますか。	(91.5) 95.8 <b>90.1</b>	いろいろな悩みについて、先生は相談にのってくれる。	(95.8) 93.0 <b>95.6</b>	【努力指標】 教育相談活動を充実させるなど、生徒の悩みや相談事を親身に受け止め、共感的人間関係づくりと自己存在感・自己決定力をつける生徒指導に努めることができた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満	A	○悩みを友だちや先生に「相談」したり、「トラブルに対応」してくれるという数値が90%を超えており、相談しやすい雰囲気を作られていると考える。特に「先生方はいじめやトラブルに対し、すぐ対応してくれる」の評価は100%となり、全職員で情報を共有し、きめ細かな対応をすることによって生徒との信頼関係がさらに向上した。  ●生徒の変化を見逃さないよう、生徒の登校時の様子等を観察し、気になる生徒への早期対応・いじめ等の未然防止を徹底する。また、気になる事案について、家庭や関係機関と連携して対応にあたる。できる限り、複数で対応する。 ●スクールカウンセラーによる面談や生徒が面談者を選ぶ面談を実施し、生徒の悩みや相談をより気軽にできるような体制を整えた。				
		(89.7) 93.4 <b>93.6</b>	先生方は、いじめやトラブルに対し、すぐに対応してくれる。	(94.4) 90.8 <b>100</b>					【努力指標】 家庭と連携し、生徒に端末機器を扱うセルフコントロール力を身に付けさせることができた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	B	○保護者と連携し、定期テスト期間中に小中連携したノー画面の取組を継続している。子どもたちはノー画面に取り組んでいる割合が盛り返してきた。  ●回を重ねるごとに前回の反省を生かし、前向きにノー画面に取り組んだことが考えられる。今後も継続してノー画面運動に取り組んでいくことが必要である。
インターネット・タブレット等の使用に関して、家庭内にルールがありますか。	(74.0) 77.0 <b>79.3</b>	ノー画面運動に取り組んでいる。	(75.2) 62.4 <b>70.5</b>	【努力指標】 家庭と連携し、生徒に端末機器を扱うセルフコントロール力を身に付けさせることができた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	B	○保護者と連携し、定期テスト期間中に小中連携したノー画面の取組を継続している。子どもたちはノー画面に取り組んでいる割合が盛り返してきた。  ●回を重ねるごとに前回の反省を生かし、前向きにノー画面に取り組んだことが考えられる。今後も継続してノー画面運動に取り組んでいくことが必要である。					
4 「業務改善」をすすめる学校づくり	職員アンケート	A+B			評価指標	達成度評価規準	評価	達成度状況の考察(O)と改善方法(●)				
	自分に求められていることを理解し、組織の一員として活動できた。	(100) 100 <b>100</b>			【努力指標】 校務分掌を理解し、学校組織の一員として、意識して行動することができた。	◆職員アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	A	○教職員一人一人が、組織的な学校運営に関わっている。100%と数値が高い。				
	自分の役割分担当等以外のことにも協力できた。	(100) 100 <b>100</b>			【努力指標】 同僚性を意識し、学校運営に協力することができた。	◆職員アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	A	○自分の校務分掌だけでなく、同僚性を意識して運営に参画していた。100%と数値が高い。				
	報告・連絡・相談・記録を徹底できた。	(100) 100 <b>100</b>			【努力指標】 学校組織の一員としてコミュニケーションを大切に、円滑な校務の取り組みを意識することができた。	◆職員アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	A	○校内におけるコミュニケーションがうまく機能し、100%と数値が高い。				
「月2回の定時退校」「20時までの退校」を実行できた。	(92) 78 <b>100</b>			【努力指標】 勤務時間を意識し、見通しを持ち、仕事を進めることができた。	◆職員アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	A	○勤務時間調査をすることで、時間外勤務時間を把握することができる。見通しを持って仕事に取り組み、ワーク・ライフ・バランスを意識している。 ●月1回の全員定時退校日と月1回のマイ定時退校日に継続して取り組んでいく。					